

息子からの贈り物

あるところに、男の子と、そのお母さんと、弟と、義理の妹と、姪が住んでいました。ある日、彼は海外に行って仕事をするチャンスを得ました。彼は他の国の言葉や文化が好きだったので、とっても嬉しかったのです。彼の家族も同じでした。

何日も、何週間も、何ヶ月も過ぎました。約1年が過ぎて、クリスマスになりました。突然、郵便で箱が送られてきました。男の子はみんなのことを忘れてはいなかったのです！

彼の義理の妹はきれいなネックレスをもらいました、弟は高級な腕時計を、たくさんのおもちゃは姪に、お母さんにはシルクのドレスが送られてきました。みんなその贈り物に大喜びでした、お母さんを除いては。

5年経ち、クリスマスの贈り物は毎年の習慣になりました。毎年クリスマスになると、みんなに贈り物がありました。しかし、その贈り物をもらっても、男の子のお母さんは笑顔になることはありませんでした。

彼が海外へ行って6回目のクリスマスの日、男の子は家族みんなにまた、プレゼントを送りました。みんな小さな箱に入ったプレゼントをもらいましたが、お母さんだけはいつもより大きな箱に入ったプレゼントをもらいました。

箱を開けるときはワクワクしてはいませんでした。お母さんがその贈り物を見た瞬間、彼女はとても喜びました！みんな、お母さんが世界で一番幸せであるかのように思えました。家族みんなどんないいものをもらったのかと不思議に思いました。何がお母さんをそんなに幸せにしてくれたのでしょうか？

みんな、お母さんのもとに近づいてみました。もらったものは金なのか、ダイヤモンドなのか、貴重な美術品なのか。しかし、みんなが箱の中で見つけたのはたった1枚の…紙でした。

混乱しながら、みんなはその紙をニコニコしているお母さんからもらい、読み上げました。

そこにはこう書いてありました、「大好きなお母さんへ、来週、帰ってきます」と。